

<今回>292回目 2021年4月23日(金)15時~18時 602会議室
読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p293、四「隋書倭国伝」より

<前回>291回目(21-4-9)出席者 8名

- 資料(21-04-09-1)前回のまとめ(清水)
- (21-04-09-2)宋書「王年代記」(清水)
- (21-04-09-3)日程表(清水)

A 報告 現会場「かながわ県民センター」は6月から改修工事になり1年間一般会員は使用できなくなる。6月から「かながわ労働プラザ」になります。紹介され、同じ方式で会場予約ができます。根岸線石川町駅北口から3分の近さです。私は方向感覚が悪く中華街の方に行ってしまいました。

B資料 2) 泉区歴史の会の会誌に古代史関係を載せていただくことになり校正を受けていますが、日本書紀、古事記の神統譜は、ほかにもあるのが理解されていないので、説明したものである。宋史王年代記の神統譜です。岩波文庫にある。スサノヲがアマテラスより先に王統についていたことが実態に合っていると思い整理したもの。
3) 日程のうち6月から1年間、かながわ労働プラザになることをお知らせした。地図を回覧。

C 読書 p287 「晋起居注」の内実 から

- 1) ト部本の読み下し「66年(A)是の年は晋の武帝の泰初2年なり、(B)晋の起居注に曰く武帝の泰初2年の10月倭の女王詛を重ねて貢献せしむ」という。(A)(B)の2つに分かれている。
- 2) 古田先生が不可解としているその(1)は壹与貢献の前に卑弥呼貢献が3回引用しているが是の年は中国側の何年に当たるとは云ってない。その(2)「晋の起居注」の文面は中国側の年号のもとの倭国側の女王からの奉獻をのべただけで神功66年=泰初2年が立証されるわけではない。この2つの不審は北野本により解決される。
- 3) (神功)66年、是の年、晋の武帝の泰初3年初の晋の起居注に云う「武帝の泰初の始め2年10月貴倭の女王重詛貢献」とこのような原形態を熱田本をはじめ全てのト部本系列の筆写は誤解した。表面上わかりやすく、実は深く矛盾した文面に自分の「識見」をもって改定した。
- 4) 重ねて貴倭とは (1) 北野本は全体として古形を保っている。ト部本は改定の手を加えている。北野本一ト部本。貴倭女王一倭女王で貴の文字があったのだ。ト部兼右本は室町時代天文4年成立の本で「禁中御本」と校合したと書かれている。(御本は鎌倉期弘長元年10月から11月に成立)。これには貴倭女王になっていた筋がある「貴イ」という。イは小文字、このイの文字について安藤会長はイは校合上の記号の1つ種である。貴の文字はあると校合したが、兼右はとらなかったという、ことだろう。初版の単行本の写真を拡大して読むと北野本の右の振り仮名は貴にタツクノ、倭にヤマトノと仮名が振られている。禁中御本には貴の文字があったのだ。
- 5) 基山と基肆城 キ国、キ牟国は太宰府近辺の領域である。岩崎小弥太は「日本書紀古注論」で非本注説を唱えたが坂本太郎はこれに反対して日本書紀編集者の本来の注としたと古田先生は追記した。

次回日程 2021-5-14(金)16時から18時 601会議室

—5-28日(金)15時から18時 603会議室

—6-11日(金)16時から18時 かなざわ労働プラザ第9会議室